



予選会では約800人、放送日は約1,600人が会場に訪れた。
右から3番目の写真は「童神」を歌った平林さん



出演者は入念な練習や打ち合わせをして、本番を迎える。
応援側も手作りで横断幕などを準備



公開生放送の45分間には、出場した20人それぞれのドラマが詰まっています。
左端写真は「関白宣言」を歌った田内さん。歌い終わって安どの表情

さあ!本番

開場の時間になると、会場に1,600人の観客が少しずつ入り始めます。先ほど並んでいた矢島さんも「まご10人応援してる」と書かれた横断幕を、ステージからよく見える2階席に貼り付けました。

ステージでは、スタッフによる説明が行われ、引き続き司会の宮本隆治アナウンサーが登場。自らが体験した巡回先でのさまざまなエピソードを紹介していくと、会場は笑い声に包まれ、一気に和やかなムードに。

そして、午後零時15分。おなじみのテーマ曲が流れ、いよいよ公開生放送が始まります。会場が拍手に包まれる中、宮本アナウンサーはゲストの2組を紹介。この日のゲストは、都はるみさんと狩人のお二人。都はるみさんは、1980年に穂高町民会館(現・穂高会館)の落成式の記念イベントのときにもここを訪れています。

まずは、ゲストと宮本アナウンサーが、安曇野市の風景映像を見ながら合併の経緯や特産品などを紹介。そして、いよいよ20組の出演者による、自慢の歌声とパフォーマンスが披露されていきます。古屋さんの順番になると家族からは大きな声援。孫10人の声援を受け、堂々と「地上の星」を歌います。三郷の原田さんは、本番になっても緊張した様子はなく、十八番の「哀愁列車」を熱唱。その他にも、学生時代の思い出に出演したという専門学生、天国のおばあちゃんに歌を届けたかったという兄弟、新婚1年目の夫婦などが出場し、家族や仲間の応援を受け、それぞれの思いを込めて歌います。

そして、この日は「恋文の宿」を歌った松本市の堀内由紀子さんがチャンピオンとなりました。堀内さんは大病を患っていました。歌を励みとし、ここまで回復したといいます。支えられた家族への感謝の思いを胸に熱唱しました。

番組が終了し、三郷の原田さんは「何とか終わって安心。堪能できた」と満面の笑みを浮かべます。この日の県内の視聴率は21%と、高視聴率を記録。元気と笑顔を日本各地に届けることができました。